

X570 AORUS ELITE

ユーザーズマニュアル

改版 1001

12MJ-X57AELT-1001R



製品の詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



地球温暖化の影響を軽減するために、本製品の梱包材料はリサイクルおよび再使用可能です。GIGABYTEは、環境を保護するためにお客様と協力いたします。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address: Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

Declare that the product

Product Type: Motherboard

Product Name: X570 AORUS ELITE

conforms with the essential requirements of the following directives:

☒ EMC Directive 2014/30/EU:

- | | |
|--|-----------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> Conduction & Radiated Emissions: | EN 55032:2012+AC:2013 |
| <input checked="" type="checkbox"/> Immunity: | EN 55024:2010+A1:2015 |
| <input checked="" type="checkbox"/> Power-line harmonics: | EN 61000-3-2:2014 |
| <input checked="" type="checkbox"/> Power-line flicker: | EN 61000-3-3:2013 |

☒ Low Voltage Directive 2014/35/EU:

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> Safety: | EN60950-1:2006+A11:2009+A12:2011+A2:2013 |
|---|--|

☒ RoHS Directive 2011/65/EU

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> Restriction of use of certain substances in electronic equipment: | This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive, |
|---|--|

☒ CE marking



Signature: Timmy Huang

(stamp)

Date: Jun. 14, 2019

Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: X570 AORUS ELITE

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109 (a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Jun. 14, 2019

著作権

©2019 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。

このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなく、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 本製品を最大限に活用できるように、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：
<https://www.gigabyte.com/jp>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

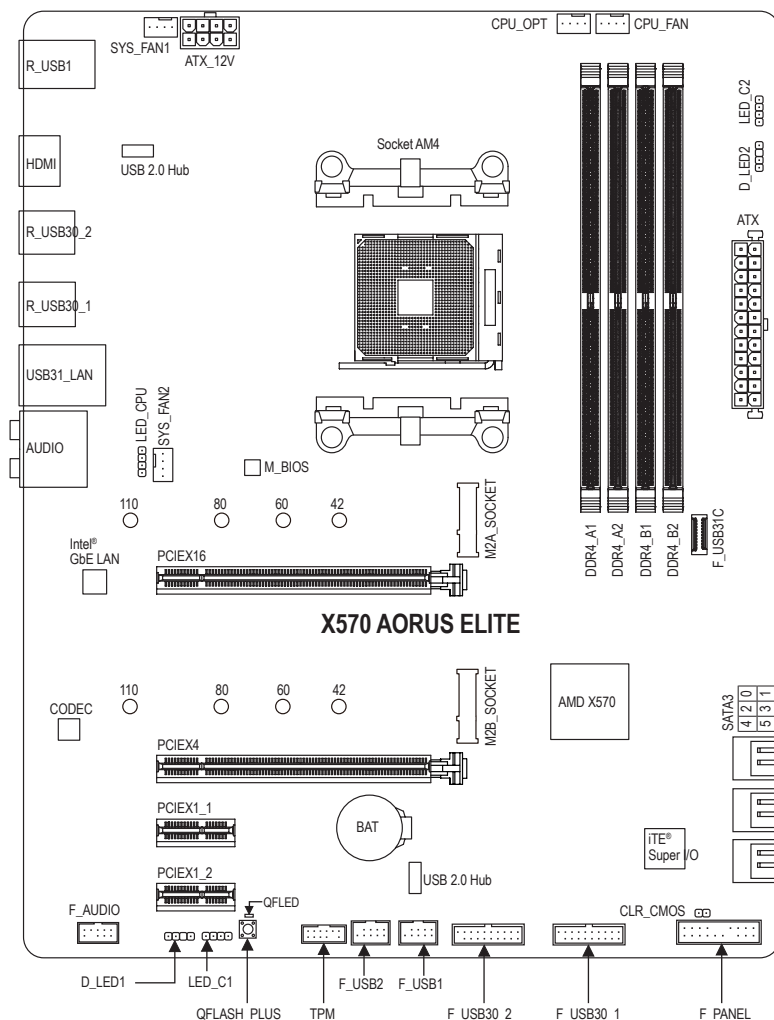
例：



目次

X570 AORUS ELITE マザーボードのレイアウト	4
第 1 章 ハードウェアの取り付け	5
1-1 取り付け手順.....	5
1-2 製品の仕様	6
1-3 CPU を取り付ける	9
1-4 メモリの取り付け	10
1-5 拡張カードを取り付ける	10
1-6 背面パネルのコネクター	11
1-7 内部コネクター	13
第 2 章 BIOS セットアップ	22
2-1 起動画面.....	22
2-2 メインメニュー	23
2-3 Favorites (F11)	24
2-4 Tweaker.....	25
2-5 Settings	27
2-6 System Info. (システムの情報)	32
2-7 Boot.....	33
2-8 Save & Exit (保存して終了)	36
第 3 章 付録	37
3-1 RAID セットを設定する	37
3-2 ドライバのインストール	39
規制声明.....	40
連絡先.....	44

X570 AORUS ELITE マザーボードのレイアウト



ボックスの内容

- ☒ X570 AORUS ELITE マザーボード
- ☒ マザーボードドライバディスク
- ☒ ユーザーズマニュアル
- ☒ クイックインストールガイド
- ☒ SATAケーブル (x4)
- ☒ G コネクター (x1)
- ☒ M.2 ネジ/M.2 ネジ用スペーサー

* 上記、ボックスの内容は参照用となります。実際の同梱物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。








第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電気放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードのS/N(シリアル番号)ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電気放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを接続するまたは抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温または湿った環境に設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。
- アダプタ、延長電源ケーブルまたはテーブルタップを使用する場合は、その取り付けおよび接続手順を必ずお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 CPU	<ul style="list-style-type: none"> AMD Socket AM4、以下をサポート： <ul style="list-style-type: none"> 第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ/ 第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ/ Radeon™ Vega グラフィックプロセッサ搭載の第2世代 AMD Ryzen™/ Radeon™ Vega グラフィックプロセッサを搭載した AMD Ryzen™ (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
 チップセット	<ul style="list-style-type: none"> AMD X570
 メモリ	<ul style="list-style-type: none"> 第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> DDR4 3200/2933/2667/2400/2133 MHz メモリモジュールのサポート 第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ/Radeon™ Vega グラフィックプロセッサ搭載の第2世代 AMD Ryzen™/Radeon™ Vega グラフィックプロセッサを搭載した AMD Ryzen™： <ul style="list-style-type: none"> DDR4 2933/2667/2400/2133 MHz メモリモジュールのサポート 最大128 GB (32 GBの単一DIMM容量) のシステムメモリをサポートする 4 x DDR4 DIMMソケット デュアルチャンネルメモリ対応 ECC Un-buffered DIMM 1Rx8/2Rx8 メモリモジュールのサポート Non-ECC Un-buffered DIMM 1Rx8/2Rx8/1Rx16 メモリモジュールのサポート XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
 オンボードグラフィックス ^(注1)	<ul style="list-style-type: none"> 統合グラフィックスプロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> HDMIポート(x1)、4096x2160@60Hzの最大解像度をサポートします。 * HDMI 2.0、HDCP 2.2、およびHDR対応。 最大16 GBまでのメモリをシェア可能
 オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> Realtek® ALC1200 コーデック ハイディフィニションオーディオ 2/4/5.1/7.1 チャンネル S/PDIFアウトのサポート
 LAN	<ul style="list-style-type: none"> Intel® GbE LAN チップ (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロット	<p>CPUに接続されているスロット (PCIEX16)：</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> PCIe 4.0 をサポートし、x16で動作する 1 x PCI Express x16 スロット 第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> PCIe 3.0 をサポートし、x16で動作する 1 x PCI Express x16 スロット * 最適のパフォーマンスを出すために、PCI Expressグラフィックスカードを1つしか取り付けない場合、PCIEX16スロットに必ず取り付けてください。 Radeon™ Vega グラフィックプロセッサ搭載の第2世代 AMD Ryzen™ / Radeon™ Vega グラフィックプロセッサを搭載した AMD Ryzen™： <ul style="list-style-type: none"> PCIe 3.0 をサポートし、x8で動作する 1 x PCI Express x16 スロット <p>チップセットに接続されたスロット (PCIEX4/PCIEX1)：</p> <ul style="list-style-type: none"> PCIe 4.0^(注1)/ 3.0 をサポートし、x 4で動作する1 x PCI Express x 16 スロット (PCIEX4) PCIe 4.0^(注2)/ 3.0 をサポートする2 x PCI Express x 1スロット






(注1) Radeon™ Vega グラフィックプロセッサ搭載の第2世代AMD Ryzen™ / Radeon™ Vega グラフィックプロセッサを搭載した AMD Ryzen™のみに該当します。

(注2) 第3世代AMD Ryzen™ プロセッサのみに該当します。

	マルチグラフィック クステクノロジ (注3)	<ul style="list-style-type: none"> AMD Quad-GPU CrossFire™と2-way AMD CrossFire™テクノロジーのサポート
	ストレージインターフェイス	<p>CPUに接続されたソケット (M2A_SOCKET):</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ: <ul style="list-style-type: none"> M.2 コネクタ (x1) (Socket 3, M key、タイプ 2242/2260/2280/22110 SATA と PCIe 4.0 x4/x2 SSD 対応) 第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ/Radeon™ Vega グラフィックプロセッサ搭載の第2世代 AMD Ryzen™/Radeon™ Vega グラフィックプロセッサを搭載した AMD Ryzen™: <ul style="list-style-type: none"> M.2 コネクタ (x1) (Socket 3, M key、タイプ 2242/2260/2280/22110 SATA と PCIe 3.0 x4/x2 SSD 対応) <p>チップセットに接続されたソケット (M2B_SOCKET):</p> <ul style="list-style-type: none"> M.2 コネクタ (x1) (Socket 3, M key、タイプ 2242/2260/2280/22110 SATA と PCIe 4.0 (注2)/3.0 x4/x2 SSD 対応) SATA 6Gb/s コネクタ (x6) RAID 0、RAID 1、および RAID 10 のサポート
	USB	<ul style="list-style-type: none"> CPUによって制御された端子: <ul style="list-style-type: none"> 背面パネルに 4 つの USB 3.2 Gen 1 ポート チップセットに制御された端子: <ul style="list-style-type: none"> 1 x USB Type-C™ ポート (内部USBヘッダー・USB 3.2 Gen 2 対応) 背面パネルに USB 3.2 Gen 2 Type-A ポート (赤) 搭載 (x2) USB 3.2 Gen 1 ポート (x4) (内部USBヘッダ経由で使用可能) チップセット+2 USB 2.0 ハブ: <ul style="list-style-type: none"> USB 2.0/1.1 ポート (x8) (背面パネルに4つのポート、内部USBヘッダを通して4ポートが使用可能)
	内部コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) 8 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) CPU ファンヘッダ (x1) 水冷CPUファンヘッダ (x1) システムファンヘッダ (x2) Addressable LEDテープ用ヘッダ (x2) RGB LEDテープ用ヘッダ (x2) CPUクーラー用LEDテープ/RGB LEDテープ用ヘッダー (x1) M.2 ソケット3 コネクタ (x2) SATA 6Gb/s コネクタ (x6) 前面パネルヘッダ (x1) 前面パネルオーディオヘッダ (x1) USB 3.2 Gen 2 に対応する USB Type-C™ヘッダ (x1) USB 3.2 Gen 1 ヘッダ (x2) USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) トラステッドプラットフォームモジュール (TPM) ヘッダ (x1) (2x6ピン、GC-TPM2.0_S モジュールのみ対応) CMOSクリアジャンパ (x1) Q-Flash Plus ボタン (x1)

(注2) 第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサのみに該当します。

(注3) 第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ / 第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサのみに該当します。




 背面パネルの コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ USB 2.0/1.1ポート (x4) ◆ HDMIポート (x1) ◆ USB 3.2 Gen 1 ポート (x4) ◆ USB 3.2 Gen 2 Type-A ポート (赤) (x2) ◆ RJ-45ポート (x1) ◆ 光学 S/PDIF 出力コネクタ (x1) ◆ オーディオジャック (x5)
 I/O コント ローラー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ iTE® I/O コントローラーチップ
 ハードウェア モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 電圧検知 ◆ 温度検知 ◆ ファン速度検知 ◆ 水冷流量検知 ◆ オーバーヒート警告 ◆ ファン異常検知 ◆ ファン速度コントロール <ul style="list-style-type: none"> * ファン速度コントロール機能のサポートについては、取り付けたクーラーによって異なります。
 BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 128 Mbit フラッシュ (x1) ◆ 正規ライセンス版AMI UEFI BIOSを搭載 ◆ PnP 1.0a、DMI 2.7、WfM 2.0、SM BIOS 2.7、ACPI 5.0
 独自機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ APP Center のサポート <ul style="list-style-type: none"> * App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。 - @BIOS - EasyTune - Fast Boot - Game Boost - ON/OFF Charge - RGB Fusion - Smart Backup - System Information Viewer ◆ Q-Flash Plus のサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress Install のサポート



CPU、メモリモジュール、SSD、および M.2 デバイスのサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



アプリの最新バージョンをダウンロードするには、GIGABYTE の Web サイトのサポートユーザーリテリリストページにアクセスしてください。

	バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> Norton® インターネットセキュリティ (OEM バージョン) cFosSpeed
	オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> Windows 10 64-bit のサポート
	フォームファクタ	<ul style="list-style-type: none"> ATX フォームファクタ、30.5cm x 24.4cm

* GIGABYTE は、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。

1-3 CPU を取り付ける



CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

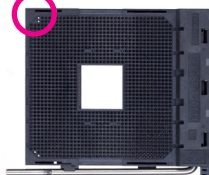
- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

CPU を取り付ける

CPU ソケットのピン 1 (小さな三角形で表示) と CPU を確認します。

小さな三角形のマークは、ソケットのピン 1 を示します

AM4 ソケット



小さな三角形のマークは CPU ピン 1 を示します

AM4 CPU



ハードウェア取り付けに関する詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えないようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには 4つの メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOS はメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を 2 倍に拡張します。

4つのメモリソケットが 2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように 2つのメモリソケットがあります：

▶▶ チャンネル A: DDR4_A1, DDR4_A2

▶▶ チャンネル B: DDR4_B1, DDR4_B2

▶▶ デュアルチャンネルメモリ構成表

	DDR4_A1	DDR4_A2	DDR4_B1	DDR4_B2
2つのモジュール	--	DS/SS	--	DS/SS
	DS/SS	--	DS/SS	--
4つのモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

(SS=片面、DS=両面、「--」=メモリなし)

CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2または4枚のモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようにお勧めします。最適なパフォーマンスを発揮するために、2枚のメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているときは、DDR4_A2とDDR4_B2ソケットにそれらのモジュールを取り付けることをお勧めします。

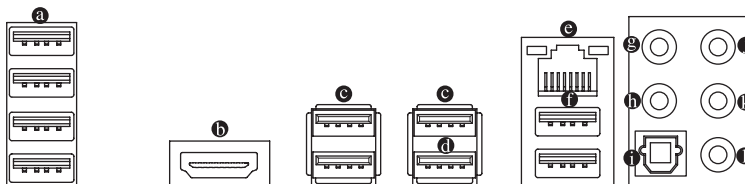
1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 背面パネルのコネクター



① USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートはUSB 2.0/1.1仕様をサポートします。このポートをUSB デバイス用に使用します。

② HDMI ポート (注1)

HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE HDMIポートはHDCP 2.2に対応し、ドルビーTrueHDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニターに接続します。サポートする最大解像度は4096x2160@60 Hzですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



HDMI機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMIに設定してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。)

③ USB 3.2 Gen 1 ポート

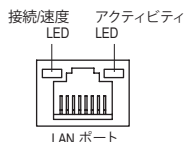
USB 3.2 Gen 1 ポートはUSB 3.2 Gen 1仕様をサポートし、USB 2.0仕様と互換性があります。このポートをUSB デバイス用に使用します。

④ USB 3.2 Gen 1 ポート (白)

USB 3.2 Gen 1 ポートはUSB 3.2 Gen 1仕様をサポートし、USB 2.0仕様と互換性があります。このポートをUSB デバイス用に使用します。Q-Flash Plus (注2)を使用する前に、このポートにUSB フラッシュメモリを挿入してください。

⑤ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オン	データを送受信していません

⑥ USB 3.2 Gen 2 Type-A ポート (赤)

USB 3.2 Gen 2 Type-A ポートはUSB 3.2 Gen 2仕様をサポートし、USB 3.2 Gen 1 および USB 2.0仕様と互換性があります。このポートをUSB デバイス用に使用します。

⑦ センター/サブウーファースピーカーアウト

センターまたはサブウーファースピーカーを接続するには、このオーディオ端子を使用します。

(注1) Radeon™ Vega グラフィックプロセッサ搭載の第2世代AMD Ryzen™ / Radeon™ Vega グラフィックプロセッサを搭載した AMD Ryzen™ のみに該当します。

(注2) Q-Flash Plus 機能を使用するには、GIGABYTEウェブサイトの「独自機能」ウェブページをご参照ください。

h リアスピーカーアウト

リアスピーカーを接続するには、このオーディオ端子を使用します。

i 光学 S/PDIF 出力コネクタ

このコネクタにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクタが装備されていることを確認してください。

① ラインイン/サイドスピーカーアウト

ラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオ端子を使用します。

② ラインアウト/フロントスピーカーアウト

ラインアウト端子です。この音声出力ジャックは、音声増幅機能をサポートしています。より良い音質をご使用いただく場合、このジャックにヘッドフォン/スピーカーに接続することを推奨します。(実際の効果は、使用されているデバイスによって異なる場合があります)。

③ マイクイン/サイドスピーカーアウト

マイクイン端子です。

オーディオジャック設定：

ジャック	ヘッドフォン/ 2 チャンネル	4 チャンネル	5.1 チャンネル	7.1 チャンネル
② センター/サブウーファース ピーカーアウト			✓	✓
h リアスピーカーアウト		✓	✓	✓
① ラインイン/サイドスピーカ ーアウト				✓
② ラインアウト/フロントスピー カーアウト	✓	✓	✓	✓
③ マイクイン/サイドスピーカ ーアウト				✓



- サラウンドサウンド用側面スピーカーを接続する場合は、オーディオ・ドライバーの設定より「ラインイン」または「マイクイン」端子を転用する必要があります。
- ライン出力端子のオーディオアンプ機能の設定は、HD Audio Managerアプリケーションにアクセスしてください。

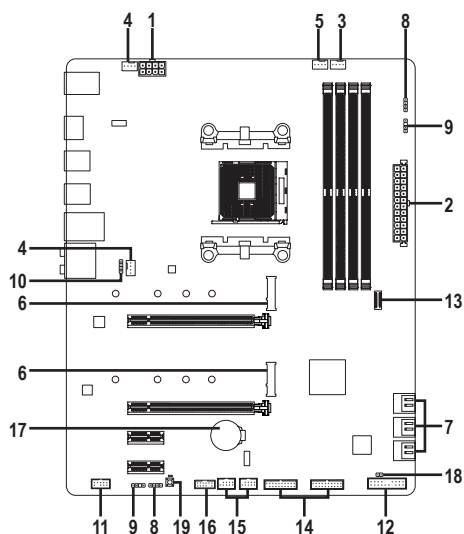


- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。



オーディオソフトウェアの詳細設定については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。

1-7 内部コネクター



1) ATX_12V	11) F_AUDIO
2) ATX	12) F_PANEL
3) CPU_FAN	13) F_USB31C
4) SYS_FAN1/2	14) F_USB30_1/F_USB30_2
5) CPU_OPT	15) F_USB1/F_USB2
6) M2A_SOCKET/M2B_SOCKET	16) TPM
7) SATA3 0/1/2/3/4/5	17) BAT
8) LED_C1/LED_C2	18) CLR_CMOS
9) D_LED1/D_LED2	19) QFLASH_PLUS
10) LED_CPU	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

- まず、デバイスが接続するコネクターに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクターにしっかり接続されていることを確認します。

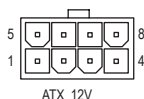
1/2) ATX_12V/ATX (2x4 12V 電源コネクタと 2x12 メイン電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。

12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

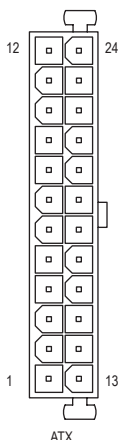


拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



ATX_12V:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	GND (2x4 ピン12Vのみ)	5	+12V (2x4 ピン12Vのみ)
2	GND (2x4 ピン12Vのみ)	6	+12V (2x4 ピン12Vのみ)
3	GND	7	+12V
4	GND	8	+12V



ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	NC
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN1/2 (ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンです。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN/SYS_FAN1



SYS_FAN2

ピン番号	定義
1	GND
2	電圧速度制御
3	検知
4	PWM速度制御

5) CPU_OPT (水冷式 CPU ファンヘッダ)

ファンヘッダは 4 ピンで、簡単に接続できるように設計されています。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。



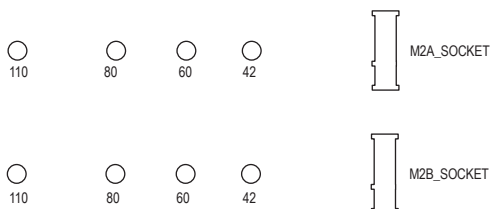
ピン番号	定義
1	GND
2	電圧速度制御
3	検知
4	PWM速度制御



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

6) M2A_SOCKET/M2B_SOCKET (M.2 ソケット3 コネクタ)

M.2コネクタはM.2 SATASSDまたはM.2 PCIe SSDをサポートし、RAID構成をサポートします。M.2 PCIe SSD を M.2 SATA SSD または SATA ハードドライブを用いて RAID セットを構築することはできません。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



M.2コネクタにM.2対応SSDに増設する場合、以下の手順に従ってください。

ステップ 1:

付属のM.2スクリューキットからネジとスペーサーを取り出して準備してください。M.2 SSDを取り付けるM.2スロットで、ヒートシンクのネジをドライバーで外し、ヒートシンクを取り外してください。(M.2ヒートシンクを備えるのはM2A_SOCKETコネクタのみです。)

ステップ 2:

取り付け穴の位置を確認してから、最初にスペーサーを締めます。コネクタに斜めの角度でM.2対応SSDをスライドさせます。

ステップ 3:

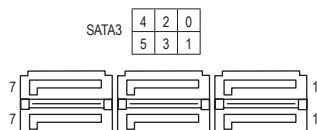
M.2対応SSDを下に押してからネジで固定します。ヒートシンクを元に戻し、元の穴に固定します。



インストールするM.2対応SSDを固定する適切な穴を選択し、ネジとナットを締め直してください。

7) SATA3 0/1/2/3/4/5 (SATA 6Gb/sコネクタ)

SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。SATA コネクタは、RAID 0、RAID 1、および RAID 10 をサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



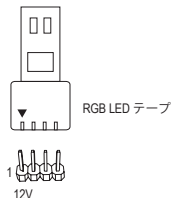
ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

8) LED_C1/LED_C2 (RGB LEDテープヘッダ)

このヘッダは、標準的なRGB LEDテープ (12V/G/R/B) を使用することができます。また、最大2メートルの長さのケーブルと最大電力2A (12V)までサポートしています。



ピン番号	定義
1	12V
2	G
3	R
4	B



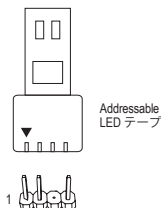
RGB LEDテープをヘッダーに接続します。LEDテープの電源ピン(プラグの三角印)は、このヘッダのピン1 (12V) に接続する必要があります。誤って接続すると、LEDテープが損傷する可能性があります。

9) D_LED1/D_LED2 (Addressable LEDテープ用ヘッダ)

ヘッダピンを使用して、最大定格電力5A (5V) およびLED最大1000個の標準5050 addressable LEDテープを接続できます。



ピン番号	定義
1	V (5V)
2	D
3	ピンなし
4	G



Addressable LEDテープをヘッダーに接続します。LEDテープ側の電源ピン(プラグの三角印)をaddressable LEDテープヘッダのピン1に接続する必要があります。誤って接続すると、LEDテープが損傷する可能性があります。



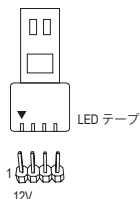
LEDテープの点灯/消灯方法については、GIGABYTEウェブサイトの「独自機能」ウェブページをご参照ください。



デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。

10) LED_CPU (CPUクーラー用LEDテープ/RGB LEDテープ用ヘッダー)

このヘッダーは、CPUクーラーLEDテープまたは最大定格2A (12V) 対応および最大長2mの標準RGB LEDテープ (12V / G / R / B)を使用することができます。



ピン番号	定義
1	12V
2	G
3	R
4	B

CPUクーラー用LEDテープ / RGB LEDテープをヘッダーに接続します。LEDテープの電源ピン (プラグの三角印) は、このヘッダのピン1 (12V) に接続する必要があります。誤って接続すると、LEDテープが損傷する可能性があります。



LEDテープの点灯/消灯方法については、GIGABYTEウェブサイトの「独自機能」ウェブページをご参照ください。



デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。

11) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

フロントパネルオーディオヘッダは、High Definition audio (HD)をサポートします。PCケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクターのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。



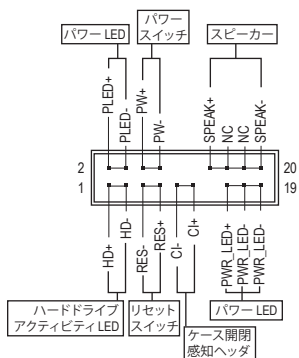
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	MIC2_L	6	検知
2	GND	7	FAUDIO_JD
3	MIC2_R	8	ピンなし
4	NC	9	LINE2_L
5	LINE2_R	10	検知



PCケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクターの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PCケースメーカーにお問い合わせください。

12) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

下記のピン配列に従い、パワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカー、PCケース開閉感知ヘッダ、ケースのインジケータ (パワーLEDやHDD LEDなど)を接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。



• PLED/PWR_LED (電源LED):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LEDはオンになります。システムがS3/S4スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LEDはオフになります。

• PW (パワースイッチ):

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「Settings」Platform Power」を参照してください)。

• SPEAK (スピーカー):

PCケースの前面パネル用スピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が1度鳴ります。

• HD (ハードドライブアクティビティLED):

PCケース前面パネルのハードドライブアクティビティLEDに接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LEDはオンになります。

• RES (リセットスイッチ):

PCケース前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

• CI (PCケース開閉感知ヘッダ):

PCケースカバーが取り外されている場合、PCケースの検出可能なPCケース開閉感知スイッチ/センサーに接続します。この機能は、PCケース開閉感知スイッチ/センサーを搭載したPCケースを必要とします。

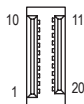
• NC:接続なし。



前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源LED、ハードドライブアクティビティLED、スピーカーなどで構成されています。ケース前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

13) F_USB31C (USB 3.2 Gen 2 に対応する USB Type-C™ヘッダ)

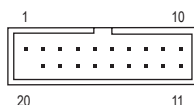
このヘッダは、USB 3.2 Gen 2仕様に準拠し、1つのUSBポート使用できます。



ピン番号	定義	ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	8	CC1	15	RX2+
2	TX1+	9	SBU1	16	RX2-
3	TX1-	10	SBU2	17	GND
4	GND	11	VBUS	18	D-
5	RX1+	12	TX2+	19	D+
6	RX1-	13	TX2-	20	CC2
7	VBUS	14	GND		

14) F_USB30_1/F_USB30_2 (USB 3.2 Gen 1 ヘッダ)

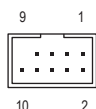
ヘッダはUSB 3.2 Gen 1およびUSB 2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.2 Gen 1対応 2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	8	D1-	15	SSTX2-
2	SSRX1-	9	D1+	16	GND
3	SSRX1+	10	NC	17	SSRX2+
4	GND	11	D2+	18	SSRX2-
5	SSTX1-	12	D2-	19	VBUS
6	SSTX1+	13	GND	20	ピンなし
7	GND	14	SSTX2+		

15) F_USB1/F_USB2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダはUSB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



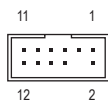
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	電源 (5V)	6	USB DY+
2	電源 (5V)	7	GND
3	USB DX-	8	GND
4	USB DY-	9	ピンなし
5	USB DX+	10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1 ヘッダに差し込まないでください。
- USBブラケットを取り付ける前に、USBブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

16) TPM (TPMモジュール用ヘッダ)

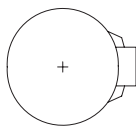
TPM (TPMモジュール) をこのヘッダに接続できます。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	LAD0	7	LAD3
2	VCC3	8	GND
3	LAD1	9	LFRAME
4	ピンなし	10	NC
5	LAD2	11	SERIRQ
6	LCLK	12	LRESET

17) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます：

1. コンピュータのパワーをオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそと取り外し、1分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5 秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。誤ったバッテリーモデルに交換した場合、ご使用の機器が破損する場合がありますのでご注意ください。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

18) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパー)

このジャンパーを使用して BIOS 設定をクリアするとともに、CMOS 値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を初期化するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。



オープン: Normal



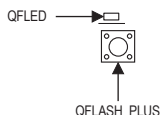
ショート: CMOSのクリア



- CMOS値を初期化する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

19) QFLASH_PLUS (Q-Flash Plus ボタン)

Q-Flash Plus では、システムの電源が切れているとき (S5シャットダウン状態) に BIOS を更新することができます。最新の BIOS を USB メモリに保存して専用ポートに接続すると、Q-Flash Plus ボタンを押すだけで自動的に BIOS を更新できます。QFLED は、BIOSのマッチングおよび更新作業が開始されると点滅し、メインBIOSの書換が完了すると点滅を停止します。



Q-Flash Plus 機能を使用するには、GIGABYTEウェブサイトの「独自機能」ウェブページをご参照ください。

第2章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。

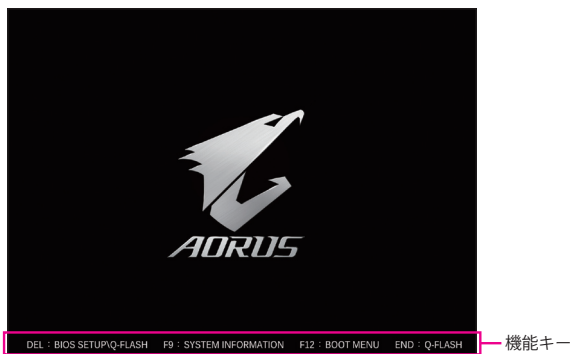


- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。

(サンプル BIOS バージョン: F1a)



<F2>キーを使用することにより、二つの異なるBIOSのモードを切り替えることができます。

Easy Modelは、迅速に現在のシステム情報を表示したり、最適なパフォーマンスを引き出すために調整を行うことができます。Easy Modeでは、マウスを使用して設定や設定画面項目間の移動を行うことができます。Advanced Modelは、詳細なBIOS設定をすることができます。キーボードの矢印キーを押すことにより設定項目を切り替えることができ、<Enter>を押すことでサブメニューに入ります。また、マウスを使用して項目に選択することもできます。



- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

2-2 メインメニュー



Advanced Modeのファンクションキー

<←><→>	選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。
<↑><↓>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>/Double Click	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+>/<Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<->/<Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F1>	ファンクションキーについての説明を表示します。
<F2>	Easy Mode に切り替えます
<F3>	現在のBIOS設定をプロファイルに保存する。
<F4>	以前に作成したプロファイルからBIOS設定をロードします。
<F5>	現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。
<F6>	Smart Fan 5の画面を表示する。
<F7>	現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。
<F11>	Favorites (お気に入り) サブメニューに切り替える。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。
<Insert>	お気に入りのオプションを追加または削除する。
<Ctrl>+<S>	取り付けられているメモリの情報を表示します。
<Esc>	メインメニュー:BIOS セットアッププログラムを終了します。 サブメニュー:現在のサブメニューを終了します。

2-3 Favorites (F11)



よく使うオプションをお気に入り設定し、<F11>キーを押すと、すべてのお気に入りオプションがあるページにすばやく切り替えることができます。お気に入りのオプションを追加または削除するには、元のページに移動してオプションの<Insert>を押します。「お気に入り」に設定すると、オプションに星印が付きます。

2-4 Tweaker



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させると CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤った BIOS 設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

🔍 CPU Clock Control

CPU ベースクロックを 1 MHz 刻みで手動で設定します。(既定値: Auto)

重要: CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

🔍 CPU Clock Ratio

取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付けの CPU によって異なります。

■ Advanced CPU Settings

🔍 Core Performance Boost^(注)

コアパフォーマンスブースト (CPB) 技術の有効/無効の設定をします。(既定値: Auto)

🔍 SVM Mode

仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値: Disabled)

🔍 Global C-state Control^(注)

CPU の C ステート状態の設定ができます。有効に設定した場合、CPU コアの周波数をシステム低負荷時に減少させ、消費電力を低減させます。(既定値: Enabled)

🔍 Power Supply Idle Control^(注)

Package C6 State を有効または無効にします。

▶▶ Typical Current Idle この機能を無効にします。

▶▶ Low Current Idle この機能を有効にします。

▶▶ Auto BIOS でこの設定を自動的に構成します。(既定値)

🔍 CCD Control^(注)

使用する CCD の数を設定します。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

☞ **SMT Mode**

CPU Simultaneous Multi-Threading 機能を有効または無効に設定できます。この機能は、マルチプロセッサ モードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

☞ **AMD CPU fTPM**

AMD CPUに統合されたTPM 2.0機能を有効/無効に設定できます。(既定値:Disabled)

☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)^(注)**

有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。

- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶ Profile1 プロファイル 1 設定を使用します。
- ▶ Profile2^(注) プロファイル 2 設定を使用します。

☞ **XMP High Frequency Support^(注)**

高周波メモリの互換性レベルを選択できます。この項目は、**Extreme Memory Profile (X.M.P.)** が **Profile1** または **Profile2** に設定されている場合にのみ設定可能です。(既定値:Auto)

☞ **System Memory Multiplier**

システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値:Auto)

■ **Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)**

■ **Memory Subtimings**

▼ **Standard Timing Control/Advanced Timing Control/CAD Bus Setup Timing/CAD Bus**

Drive Strength/Data Bus Configuration

これらのセクションでは、メモリのタイミング設定を変更できます。注:メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

■ **SPD Info**

取り付けられているメモリの情報を表示します。

☞ **CPU Vcore/Dynamic Vcore(DVID)/VCORE SOC/Dynamic VCORE SOC(DVID)/CPU VDD18/CPU VDDP/PM_1VSOC/PM_1V8/DRAM Voltage (CH A/B)**

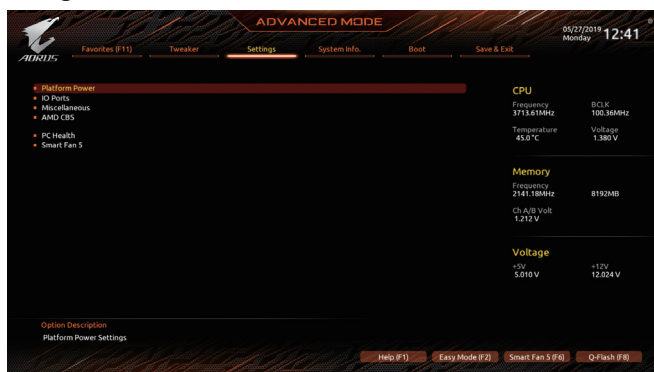
これらの項目で CPU Vcore とメモリ電圧を調整することができます。

■ **Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)**

このサブメニューでは、負荷線校正(Load-Line Calibration)レベル、過電圧保護レベル、過電流保護レベル、および PWM 周波数を設定できます。

(注) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

2-5 Settings



■ Platform Power

☞ AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

- ▶▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。
- ▶▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
- ▶▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。(既定値)

☞ ErP

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値: Disabled)

注: このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。アラームタイマーによる復帰、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン。

☞ Soft-Off by PWR-BTTON

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

- ▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

☞ Power Loading

ダミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ Resume by Alarm

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値: Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

- ▶▶ Wake up day: ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
- ▶▶ Wake up hour/minute/second: 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注: この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。

☞ Wake on LAN

Wake on LAN 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ High Precision Event Timer

High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

■ IO Ports

☞ Integrated Graphics^(注)

オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。

- ▶ Auto グラフィックスカードがインストールされているかによって、BIOSはオンボードグラフィックスを自動で有効または無効にします。(既定値)
- ▶ Forces オンボードグラフィックスを有効にします。
- ▶ Disabled オンボードグラフィックスコントローラを無効にします。

☞ UMA Mode^(注)

UMAモードを指定する。

- ▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- ▶ UMA Specified UMAフレーム・バッファの大きさを設定します。
- ▶ UMA Auto ディスプレイ解像度を設定します。

Integrated Graphics が Forces に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ UMA Frame Buffer Size^(注)

フレームバッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラに対してのみ割り当てられたシステムメモリの合計量です。例えば、MS-DOSはディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプション: Auto (既定値)、64M~16G。

UMA Mode が UMA Specified に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ Display Resolution^(注)

ディスプレイ解像度を設定できます。オプション: Auto (既定値)、1920x1080 and below、2560x1600、3840x2160。

UMA Mode が UMA Auto に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ Initial Display Output

取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

- ▶ IGD Video^(注) 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
- ▶ PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。(既定値)
- ▶ PCIe 2 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX4 スロットにあるグラフィックカードを設定します。

☞ HD Audio Controller

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

☞ PCIEX16 Bifurcation

PCIEX16 スロットの帯域幅をどのように分割するかを決定できます。オプション: Auto、PCIe 2x8、PCIe 1x8/2x4、PCIe 4x4。(既定値: Auto)

☞ Above 4G Decoding

64 ビット対応のデバイスは、4 GB 以上のアドレス空間でデコードすることができます。(お使いのシステムが 64 ビット PCI デコードをサポートしている場合のみ)。**Enabled** (有効) 設定にした場合、複数の高度なグラフィックスカードが使用されている場合、オペレーティングシステムを読み込み中に起動することができない場合があります (4 GB制限の仕様のため)。(既定値: Disabled)

☞ Onboard LAN Controller

オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。

■ USB Configuration

☞ Legacy USB Support

USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値:Enabled)

☞ XHCI Hand-off

XHCIハンドオフに対応していないOSでも、XHCIハンドオフ機能を有効/無効に設定できます。(既定値:Enabled)

☞ USB Mass Storage Driver Support

USBストレージデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

☞ Port 60/64 Emulation

入出力ポート 64h および 60h についてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。MS-DOS または USB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムで USB キーボードまたはマウスをフル レガシ サポートするにはこれを有効にします。(既定値:Disabled)

☞ Mass Storage Devices

接続されたUSB大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。

■ NVMe Configuration

取り付けられている場合、M.2 NVME PCIe SSD に関する情報を表示します。

■ SATA Configuration

☞ SATA Mode

チップセットに統合されたSATAコントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。

- ▶ RAID SATAコントローラーに対してRAIDモードを有効にします。
- ▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバがNCQ(ネイティブ・コマンド・キューイング)およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)

☞ NVMe RAID mode

M.2 NVMe PCIe SSDを使用してRAIDを構成するかどうかを設定できます。(既定値:Disabled)

☞ SATA Port 0/1/2/3/4/5 (SATA3 0、1、2、3、4、5 コネクタ)

接続されているSATAデバイスの情報を表示します。

▶ Network Stack Configuration

☞ Network Stack

Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)

☞ Ipv4 PXE Support

IPv4PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ Ipv4 HTTP Support

IPv4のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ Ipv6 PXE Support

IPv6PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

- **IPv6 HTTP Support**
IPv6のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- **IPSEC Certificate**
インターネット・プロトコル・セキュリティを有効または無効にします。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- **PXE boot wait time**
PXEブートをキャンセルするための、<Esc>キー入力待ち時間を設定できます。
- **Media detect count**
外部メディアの存在を確認する回数を設定できます。
- **Intel(R) I211 Gigabit Network Connection**
このサブメニューは、LAN 構成と関連する構成オプションの情報を提供します。
- **Miscellaneous**
 - **LEDs in System Power On State**
システムの電源が入っているときに、マザーボードのLED照明を有効または無効にすることができます。
 - Off システムがオンのときに、選択した照明モードを無効にします。
 - On オンシステムがオンのときに、選択した照明モードを有効にします。(既定値)
 - **LEDs in Sleep, Hibernation, and Soft Off States**
システムがS3 / S4 / S5状態のマザーボードのLED点灯モードを設定できます。
この項目は、**LEDs in System Power On State** が **On** に設定されている場合に設定できます。
 - Off システムがS3 / S4 / S5状態に入ったときに、選択した照明モードを無効にします。(既定値)
 - On システムがS3 / S4 / S5状態の場合、選択した照明モードを有効にします。
 - **PCIe Slot Configuration**
PCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、Gen 3、またはGen 4に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
 - **3DMark01 Enhancement**
一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値:Disabled)
 - **IOMMU**
AMD IOMMUサポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Auto)
- **Trusted Computing**
Trusted Platform Module (TPM) を有効または無効にします。
- **AMD CBS**
このサブメニューには、AMD CBS関連の設定オプションがあります。
- **PC Health**
 - **Reset Case Open Status**
 - Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
 - Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。

☞ **Case Open**

マザーボードのCIヘッダに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

☞ **CPU Vcore/CPU VDDP/DRAM Channel A/B Voltage/+3.3V/+5V/+12V/VCORE SOC**

現在のシステム電圧を表示します。

■ **Smart Fan 5**

☞ **Monitor**

ターゲットを切り替えることによってモニタ表示することができます。(既定値:CPU FAN)

☞ **Fan Speed Control**

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)

▶ Silent ファンを低速度で作動します。

▶ Manual グラフ上でファンの速度制御を設定ができます。

▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

☞ **Fan Control Use Temperature Input**

ファン速度コントロール用の基準温度を選択できます。

☞ **Temperature Interval**

ファン速度変動用の温度間隔を選択できます。

☞ **Fan Control Mode**

▶ Auto BIOSは、取り付けられたファンのタイプを自動的に検出し、最適の制御モードを設定します。(既定値)

▶ Voltage 電圧モードは、3ピンのファンです。

▶ PWM PWMモードは、4ピンのファンです。

☞ **Fan Stop**

Fan Stop 機能を有効または無効設定することができます。温度曲線を使用して温度制限を設定できます。ファンは、温度が限界値より低いと動作を停止します。(既定値:Disabled)

☞ **Temperature**

選択された領域の、現在の温度を表示します。

☞ **Fan Speed**

現在のファン速度を表示します。

☞ **Flow Rate**

水冷システムの流量を表示します。

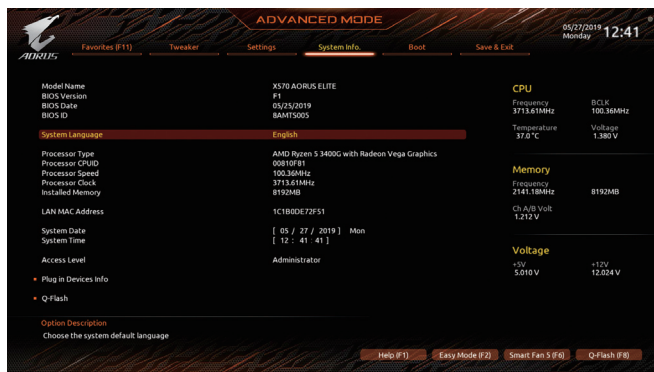
☞ **Temperature Warning**

温度警告のしきい値を設定します。温度がしきい値を超えた場合、BIOS が警告音を発します。オプション: Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。

☞ **Fan Fail Warning**

ファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。警告があった場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値:Disabled)

2-6 System Info. (システムの情報)



このセクションでは、マザーボードモデルおよびBIOSバージョンの情報を表示します。また、BIOSが使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

System Language

BIOS が使用する既定の言語を選択します。

System Date

システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

System Time

システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00:00 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator** (管理者) として表示されます。)管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

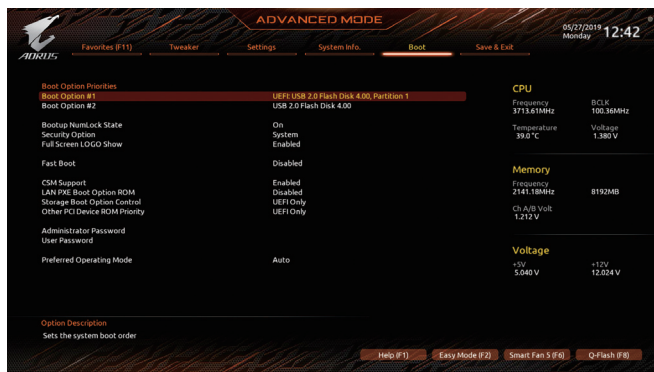
Plug in Devices Info

SATA、PCI Express、および M.2 デバイスが取り付けられている場合は、それらのデバイスに関する情報を表示します。

Q-Flash

Q-Flash ユーティリティにアクセスして BIOS を更新したり、現在の BIOS 設定をバックアップしたりできます。

2-7 Boot



☞ Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイス リストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージ デバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 10 (64 ビット) など GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 10 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

☞ Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities

ハードドライブ、光学ドライブ、フロッピーディスク ドライブ、LAN 機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイス タイプの起動順序を指定します。このアイテムで <Enter> を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。上記タイプのデバイスが1つでもインストールされていれば、この項目は表示されます。

☞ Bootup NumLock State

POST 後にキーボードの数字キーパッドにある NumLock 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: On)

☞ Security Option

パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Administrator Password/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▶▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)

☞ Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTE ロゴの表示設定をします。**Disabled** にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値: Enabled)

☞ Fast Boot

Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。**Ultra Fast** では起動速度が最速になります。(既定値: Disabled)

☞ SATA Support

- ▶▶ Last Boot SATA Devices Only 以前の起動ドライブを除いて、すべての SATA デバイスは、OS 起動プロセスが完了するまで無効になります。(既定値)

- ▶▶ All SATA Devices オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 SATA デバイスは機能します。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ NVMe Support

NVMe デバイスを有効または無効にすることができます。(既定値: Enabled)

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ VGA Support

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

- ▶▶ Auto 従来のオプション ROM のみを有効にします。

- ▶▶ EFI Driver EFI オプション ROM を有効にします。(既定値)

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ USB Support

- ▶▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になります。

- ▶▶ Full Initial オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。(既定値)

- ▶▶ Partial Initial OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になります。

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この機能は無効になります。

☞ Network Stack Driver Support

- ▶▶ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)

- ▶▶ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ CSM Support

従来の PC 起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

- ▶▶ Disabled UEFI CSM を無効にし、UEFI BIOS 起動プロセスのみをサポートします。

- ▶▶ Enabled UEFI CSM を有効にします。(既定値)

☞ LAN PXE Boot Option ROM

LAN コントローラーの従来のオプション ROM を有効にすることができます。(既定値: Disabled)

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ Storage Boot Option Control

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFI またはレガシーのオプション ROM を有効にするかを選択できます。

- ▶▶ Disabled オプション ROM を無効にします。

- ▶▶ UEFI Only UEFI のオプション ROM のみを有効にします。(既定値)

- ▶▶ Legacy Only レガシーのオプション ROM のみを有効にします。

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

➤ **Other PCI Device ROM Priority**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFI またはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▶ Disabled オプションROMを無効にします。
- ▶ UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
- ▶ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

➤ **Administrator Password**

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。

➤ **User Password**

ユーザーパスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

注: ユーザーパスワードを設定する前に、最初に管理者パスワードを設定してください。

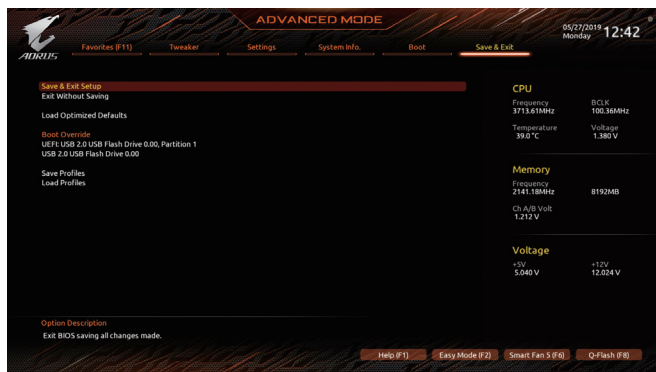
■ **Secure Boot**

セキュアブートを有効または無効設定することができます。**CSM Support** が **Disabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

➤ **Preferred Operating Mode**

BIOS セットアップに入った後に、EasyモードとAdvancedモードのどちらに入るかを選択できます。**Auto**は前回使用したBIOSモードに入ります。(既定値: Auto)

2-8 Save & Exit (保存して終了)



Save & Exit Setup

この項目で<Enter>を押し、**Yes**を選択します。これにより、CMOSの変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No**を選択するかまたは<Esc>を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

Exit Without Saving

この項目で<Enter>を押し、**Yes**を選択します。これにより、CMOSに対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No**を選択するかまたは<Esc>を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

Load Optimized Defaults

この項目で<Enter>を押し、**Yes**を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

Boot Override

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで<Enter>を押し、**Yes**を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。

Save Profiles

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1～セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter>を押して終了します。または**Select File in HDD/FDD/USB**を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。

Load Profiles

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter>を押して完了します。**Select File in HDD/FDD/USB**を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第3章 付録

3-1 RAID セットを設定する

RAIDレベル

	RAID 0	RAID 1	RAID 10
ハードドライブの 最小数	≥2	2	4
アレイ容量	ハードドライブの数 * 最小ドライブのサイズ	最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数/2) * 最小ドライブのサイズ
耐故障性	いいえ	はい	はい

始める前に、以下のアイテムを用意してください：

- 少なくとも1台の SATA ハードドライブまたは SSD。^(注)(最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを2台使用することをお勧めします)。
- Windows セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB メモリドライブ

オンボード SATA コントローラを設定する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

HDDまたはSSDを接続のSATA/M.2 コネクタに接続してください。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定する

SATA コントローラコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ：

コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト)中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。**Settings\IO Ports**の設定項目で、**SATA Configuration\SATA Mode** を **RAID**にします。次に設定を保存し、コンピュータを再起動します。(NVMe PCIe SSDを使用してRAIDを構成する場合は、**NVMe RAID mode**を**Enabled**に設定してください。)



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なる場合があります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

(注) M.2 PCIe SSD を RAID セットを M.2 SATA SSD または SATA ハードドライブと共に設定するために使用することはできません。

C. UEFI RAID の設定

ステップ:

1. BIOSセットアップから、項目 **B**ootを選択し、**CSM Support**を**Disabled**に設定します。そして、変更内容を保存してBIOSセットアップを終了します。
2. システムの再起動後、再度 BIOS セットアップに入ります。続いて **Settings\RAIDXpert2 Configuration Utility** サブメニューに入ります。
3. **RAIDXpert2 Configuration Utility**画面で、**Array Management**の<Enter>を押して**Create Array**の画面に入ります。RAIDレベルを選択します。サポートされるRAIDレベルにはRAID 0、RAID 1、とRAID 10が含まれています(使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。次に、**Select Physical Disks**画面で<Enter>を押して、**Select Physical Disks**の画面に入ります。
4. **Select Physical Disks**の物理ディスクの選択画面で、RAIDアレイに含めるハードドライブを選択し、**Enabled**(有効)に設定します。次に、下矢印キーを用いて**Apply Changes**に移動し、<Enter>を押します。そして、前の画面に戻り、**Array Size**、**Array Size Unit**、**Read Cache Policy**、および**Write Cache Policy**を設定します。
5. 容量を設定後、**Create Array** に移動し、<Enter> を押して開始します。
6. 完了すると、**Array Management**画面に戻ります。**Manage Array Properties**の設定で、新しいRAIDボリュームと、RAIDレベル、アレイ名、アレイ容量などの情報が表示されます。

SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールします。

BIOS設定が正しければ、オペレーティングシステムをいつでもインストールできます。

オペレーティングシステムをインストール

一部のオペレーティングシステムにはすでに SATA RAID/AHCI ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセス中に RAID/AHCI ドライバを個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようにお勧めします。インストールされているオペレーティングシステムが、OS インストールプロセス中に追加 SATA RAID/AHCI ドライバの提供を要求する場合は、以下のステップを参照してください。

1. ドライバディスクの**!Boot** フォルダにある **Hw10** フォルダをお使いの USBメモリドライブにコピーします。
2. Windows セットアップディスクからブートし、標準の OS インストールステップを実施します。画面でドライバを読み込んでくださいという画面が表示されたら、**Browse**を選択します。
3. USBメモリドライブを挿入し、ドライバの場所を閲覧します。ドライバの場所は次の通りです。
\\Hw10\RAIDx64
4. まずは、**AMD-RAID Bottom Device**を選択し、**Next**をクリックしてドライバを読み込みます。次に、**AMD-RAID Controller**を選択し、**Next**をクリックしてドライバを読み込みます。最後に、OSのインストールを続行します。



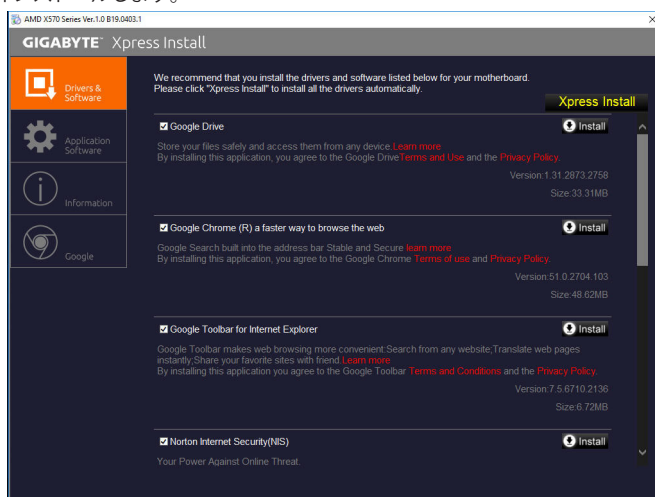
RAIDアレイの構成の詳細については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。

3-2 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exeの実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Xpress Install** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印  アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。



ソフトウェアについては、GIGABYTEのウェブサイトアクセスしてください。



トラブルシューティング情報については、GIGABYTEのウェブサイトアクセスしてください。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。

当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとし、しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに對する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS(電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE(廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2012/19/EU WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装(運送用コンテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

[illegible]



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス: No.6, Baoqiang Rd., Xindian Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000, FAX: +886-2-8912-4005

技術および非技術サポート(販売/マーケティング): <https://esupport.gigabyte.com>

WEBアドレス(英語): <https://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <https://www.gigabyte.com/tw>

- **GIGABYTE eSupport**

技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:
<https://esupport.gigabyte.com>

